

## iCONM/CHANGE 学術セミナーのご案内 **「ALS の病態解明と核酸医薬による治療の可能性」 — ALS 研究の現状、課題、今後の展望 —**

皆さま

平素は大変お世話になっております。10月6日午後2時より開催する「ALS の病態解明と核酸医薬による治療の可能性」と題したオンラインセミナーについてご案内申し上げます。演者は、大学院生時代から ALS（筋萎縮性側索硬化症）研究一筋で神経内科学が専門の大阪大学大学院 連合小児発達学研究科 神経発達・変性疾患共同研究講座 長野清一 教授です。現時点で、未充足医療（Unmet Medical Needs）のひとつとされる同疾患に関して最新の話題を提供して頂きます。

詳細は以下をご覧ください。皆様のご出席を心よりお待ちしております。

### 記

**日時：** 2026 年 10 月 6 日（火） 午後 2 時～午後 3 時半（午後 1 時 45 分開場）

**場所：** ZOOM ウェビナーによるオンライン開催

**演者：** 長野 清一 教授 大阪大学大学院 連合小児発達学研究科  
神経発達・変性疾患共同研究講座  
同大学院医学系研究科神経内科学

**演題：** ALS の病態解明と核酸医薬による治療の可能性～ALS 研究の現状、課題、今後の展望

**参加費：** 無料

**参加登録：** 以下のサイトから事前登録をお願いします。

**URL：** [https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN\\_H1GQXh2YT8SiTsywTBzG8A#/registration](https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_H1GQXh2YT8SiTsywTBzG8A#/registration)



**申込締切：** 2026 年 10 月 5 日（月） 午後 5 時

**講演要旨：** 筋萎縮性側索硬化症（ALS）は運動ニューロンの変性・脱落により全身の筋力低下を生じる神経変性疾患であり、根本的な治療法は見出されていない。大部分の ALS では RNA 結合タンパク質 TDP-43 の神経細胞内局在変化・異常凝集が知られており、TDP-43 による RNA 制御機構の何らかの異常が ALS の病態に関わることが推測されている。我々は患者検体やモデル細胞・マウスを用いた網羅的解析により、ALS において運動ニューロン変性に重要な役割を果たすと考えられるいくつかの遺伝子を同定してきた。本講演では ALS における病態研究の潮流と合わせ、我々の研究の現況や今後の治療への応用可能性につき概説する。

## 講師略歴：

1992 年大阪大学医学部卒業。2000 年同学大学院医学系研究科修了・博士（理学）を取得後、大阪大学医学部附属病院神経内科に入局。2001-2003 年米国マサチューセッツ総合病院 ハーバード大学遺伝学・老化研究部門研究員。2007 年大阪大学大学院医学研究科神経内科学助教。2017 年に准教授へ昇進するとともに国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第五部室長を兼務。2021 年大阪大学大学院医学研究科寄付講座教授。2023 年より現職。



## ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

## プロジェクト CHANGE について

文部科学省/JST による「令和 4 年度共創の場形成支援プログラム COI-NEXT」（共創分野・本格型）に川崎市産業振興財団（理事長：鈴木 毅、所在地：川崎市幸区、略称：KIIP）が代表機関となり申請し、2022 年 10 月 25 日に採択が決まった COI-NEXT 川崎拠点のことをプロジェクト CHANGE と呼びます。「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」をビジョンに掲げ、少子高齢社会にあって負担が増える医療職種の中でも、これまで工学がほとんど介入してこなかった看護領域に特に着目して看護業務の負担軽減を工学の力で行うとともに、老化に抗う身体を造る術について研究開発を行い社会実装します。さらには、市民のケアコンピテンシー（ケアする力）を高め、誰もが簡単に扱えるケア製品やシステムを開発します。

\* ホームページを刷新しました。

<https://change.kawasaki-net.ne.jp/>

2026 年 9 月 29 日